



巡回企画展

調べてきた！集めてきた！

茅ヶ崎の植物と『神奈川県植物誌 2018』

2019 年 10 月 8 日(火)~12 月 8 日(日)

主催 茅ヶ崎市教育委員会 茅ヶ崎市文化資料館

共催 神奈川県立生命の星・地球博物館

神奈川県植物誌調査会

協力 茅ヶ崎市文化資料館自然資料整理グループ

ごあいさつ

地域に生育する植物を調べてまとめたものを植物誌といいます。この度、神奈川県植物誌調査会を中心に、県内に現在生育している植物と過去に採集された植物の標本の調査がおこなわれ、『神奈川県植物誌 2018』が 2018 年に刊行されました。

茅ヶ崎市文化資料館は、1971 年の開館以来、茅ヶ崎市を中心に長年にわたり自然環境の調査研究、標本資料や情報の収集保存、展示や観察会などをおとした情報発信の活動を市民の皆さまと協力しておこなっています。『神奈川県植物誌 2018』の各調査活動においても協力し、市内で採集された植物の標本を収蔵機関として受け入れ、開館以来 50 年近くにわたる活動で収集してきた植物標本データの提供をおこないました。

本展では、神奈川県立生命の星・地球博物館で 2018 年に開催された「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」の巡回展示をおこなうとともに、これまでに茅ヶ崎市内で確認された植物、地域における長年にわたる調査や収集保存の活動について、実物の植物標本資料や写真を中心に紹介いたします。

私たちが生活している地域の自然環境について調べ、知り、親しむきっかけとして頂ければ幸いです。

2019（令和元）年 10 月

茅ヶ崎市教育委員会

本展は、神奈川県立生命の星・地球博物館で開催された 2018 年度特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」の巡回展示と茅ヶ崎市内の植物や植物調査に関する「茅ヶ崎の植物」の展示を合わせ、地域における長年にわたる調査とその収集保存の活動について、実物の植物標本資料や写真を中心に構成しております。本パンフレットは、それら展示内容の中の「茅ヶ崎の植物」をメインとして再構成したものです。

神奈川県植物誌とは

地域に生育する植物を調べてまとめたものを植物誌といいます。植物誌は、現在の自然下での植物の分布や生育状況、過去に採集された植物の標本や記録などの網羅的調査により作成され、継続的な調査をおこなうことにより、地域の変遷を反映した自然環境データとして重要視されています。

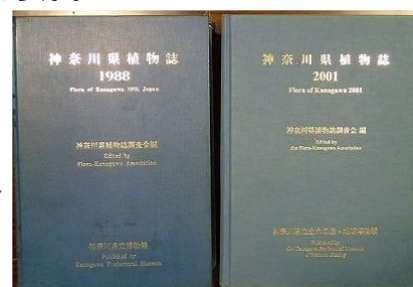
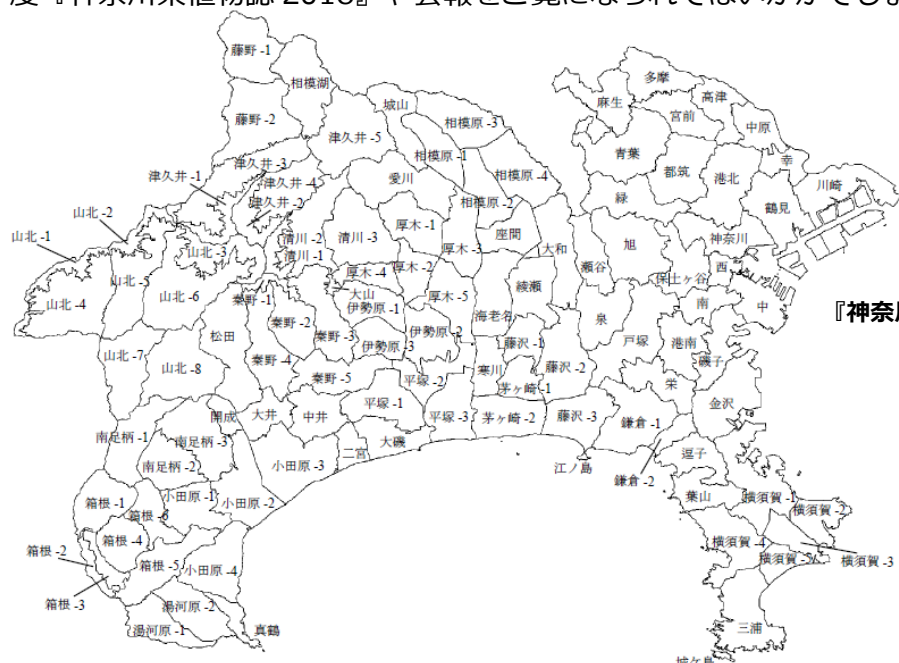
神奈川県は、全国のなかでも、生育する植物の種類や分布が植物誌により把握されている地域といわれています。『神奈川県植物誌』の作成では実物の植物標本を重視しており、観察記録の結果だけではなく、実物の植物標本の保存と確認にもとづいた植物誌として広く評価されています。

これまでに『神奈川県植物誌』は『神奈川県植物誌 1988』、『同 2001』が刊行され、2018 年 12 月に最新の『神奈川県植物誌 2018』が神奈川県植物誌調査会から刊行されました。

調査は、神奈川県全域を 111 の調査区に区分し、神奈川県植物誌調査会の会員が調査員として各調査区を分担して、すべての対象植物についておこなわれました。まず、現在の各植物の分布状況を野外調査し、確認された植物について採集をおこない標本が作成されました。作成された標本は、博物館施設などの標本収蔵施設に収蔵され保存されました。続いて、博物館施設などの標本が収蔵されている場所で、今回の野外調査で採集された標本と、過去に採集された標本について、詳細な植物の種類を確認する同定作業と、採集記録を確認する調査がおこなわれました。

『神奈川県植物誌 2018』には、このようにして調査された植物の種類ごとに、これまでの分布状況と最新の情報がまとめられています。これまでに 3,000 種以上の植物が確認され、県内における在来植物の新たな分布の発見や、侵入してきた帰化植物の記録がなされました。

『神奈川県植物誌 2018』には印刷冊子版と電子版があります。印刷冊子版の頒布は終了しましたが、茅ヶ崎市立図書館や全国の主要図書館で閲覧することができます。電子版は、神奈川県植物誌調査会の Web サイト(<http://flora-kanagawa2.sakura.ne.jp/>)で公開されており、誰でも利用することができます。また、同 Web サイトでは神奈川県植物誌調査会の会報を読むこともできます。一度『神奈川県植物誌 2018』や会報をご覧になられてはいかがでしょうか。



『神奈川県植物誌 1988』(左)、『同 2001』(右)



『神奈川県植物誌 2018』(上下巻)

図 『神奈川県植物誌 2018』 調査区一覧 神奈川県植物誌調査会(2018)

身近なタンポポ 調べてみたら分かったこと

皆さんがよく目にするタンポポには複数の種類があり、よくみられる種類は3種類あります。一つは、春に咲く在来種のカントウタンポポです。あとの二つは、どちらもヨーロッパ原産の帰化植物で、さまざまな場所でみられ、開花の時期が長いセイヨウタンポポと、春によくみられ、種子が赤いことが特徴のアカミタンポポです。タンポポは地域環境の指標として、よく調査されてきた植物です。現在、セイヨウタンポポはカントウタンポポとの間に雑種が形成され、平塚市での調査では、純粋なセイヨウタンポポはわずか2%で、ほぼすべてがカントウタンポポとの雑種個体。アカミタンポポは約50個体のうち、純粋なアカミタンポポは45%だったという結果が報告されています。以前は総苞片が張り付いているのがカントウタンポポ、総苞片が反り返っているのがセイヨウタンポポとされていましたが、雑種のセイヨウタンポポの総苞片の反り返りは中途半端なものがみられ、純粋なセイヨウタンポポと雑種のセイヨウタンポポの見え目の区別は難しいようです。



カントウタンポポ



セイヨウタンポポ



アカミタンポポ

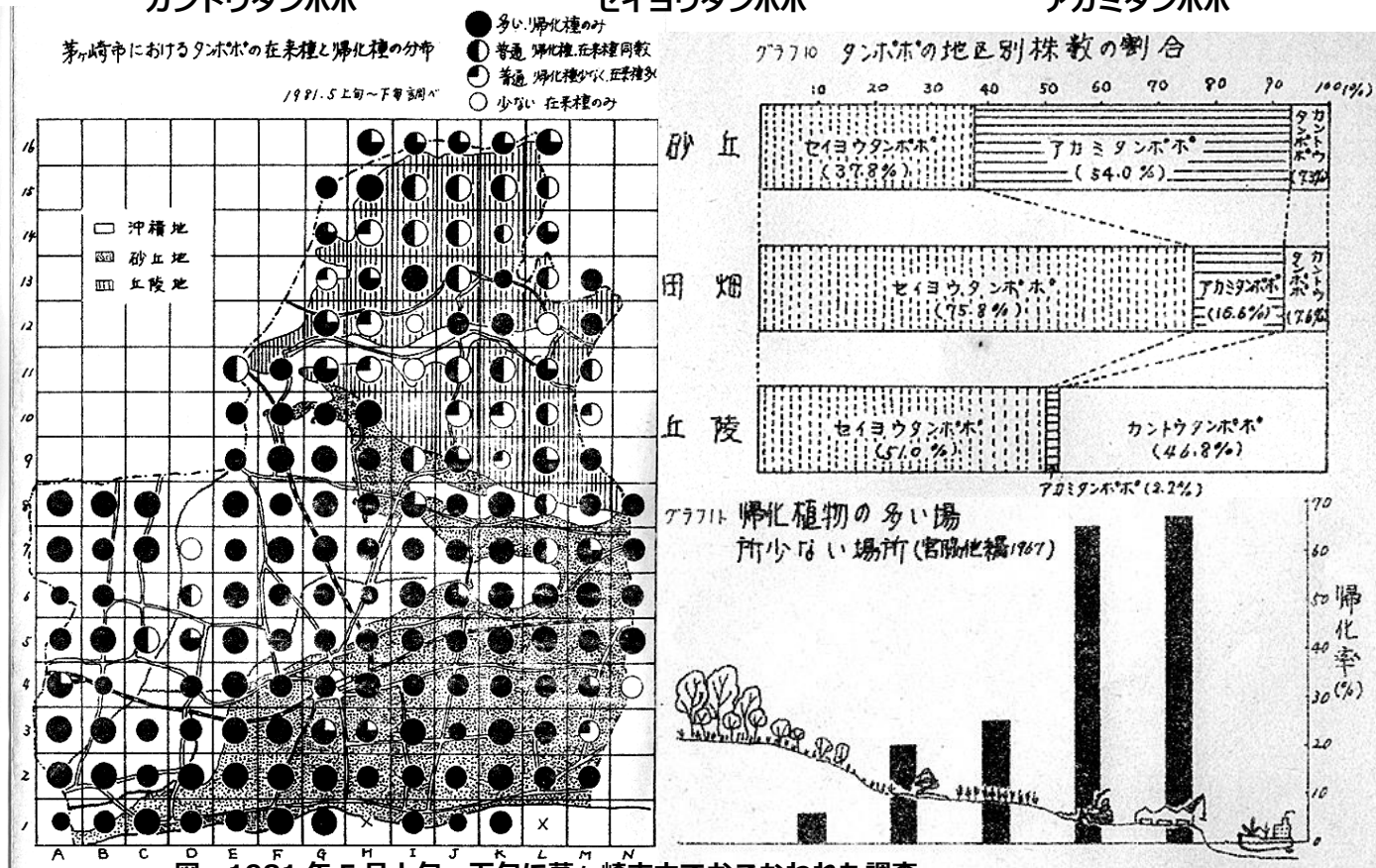
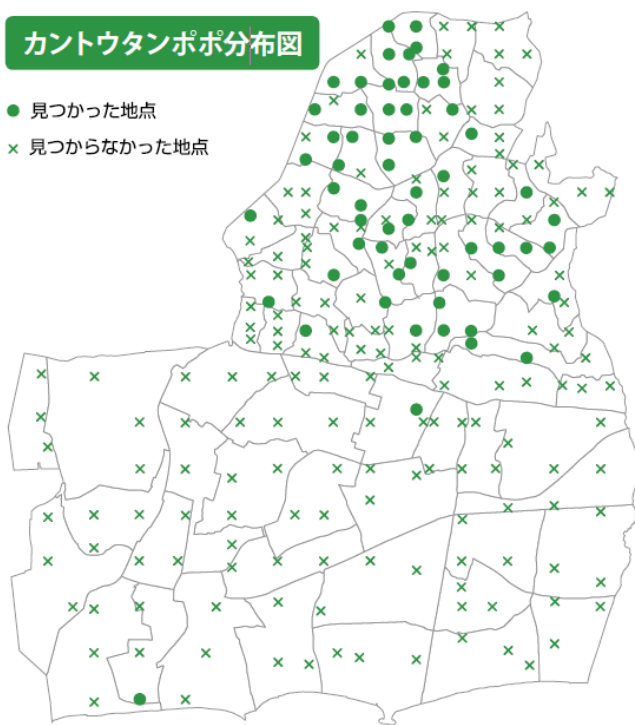


図 1981年5月上旬～下旬に茅ヶ崎市内でおこなわれた調査

茅ヶ崎市立松林中学校(1981) 昭和56年度版 身近な植物に親しむための手引き書。

カントウタンポポ分布図

- 見つかった地点
- × 見つからなかった地点



カントウタンポポ

タンポポの種類を指標にして、里山的な環境か、市街化が進んだ環境か知ることができます。2005年の調査結果をみると、カントウタンポポは樹林や農地が残されている北部の丘陵地を中心に分布し、里山的な環境に多いことが分かります。残り2種は市街化が進んだ環境に多く分布し、セイヨウタンポポは市内全域に分布し、比較的どこでも確認されています。アカミタンポポは、舗装された場所、乾燥した場所にも適応できるといわれており、南部の市街地では確認されていますが、北部の丘陵地ではほとんど確認されていません。1981年におこなわれた調査と2005年の調査を比べると、1981年当時から市内の北部にカントウタンポポが分布し、全域にセイヨウタンポポ、南部にアカミタンポポが多く分布している傾向は変わらないことがわかります。このような複数の調査結果をより細かくみていくと、他にも何か分かることがあるかも知れません。

セイヨウタンポポ分布図

- 見つかった地点
- × 見つからなかった地点

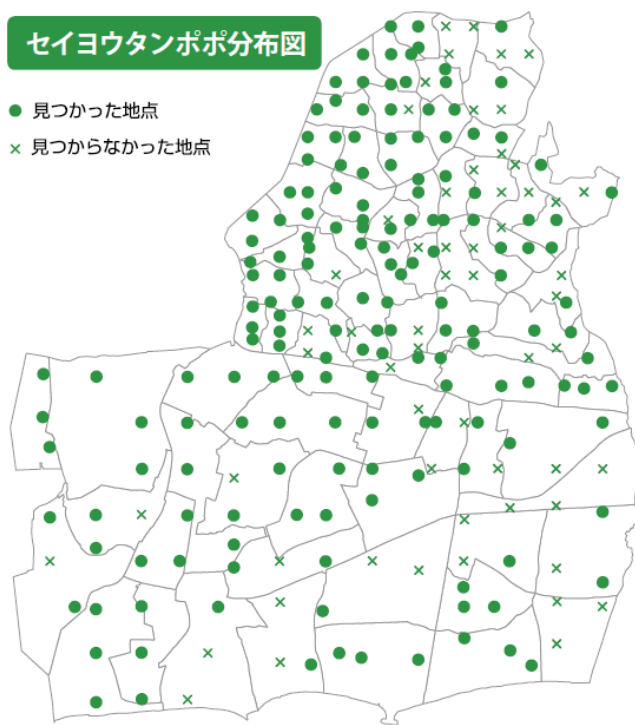
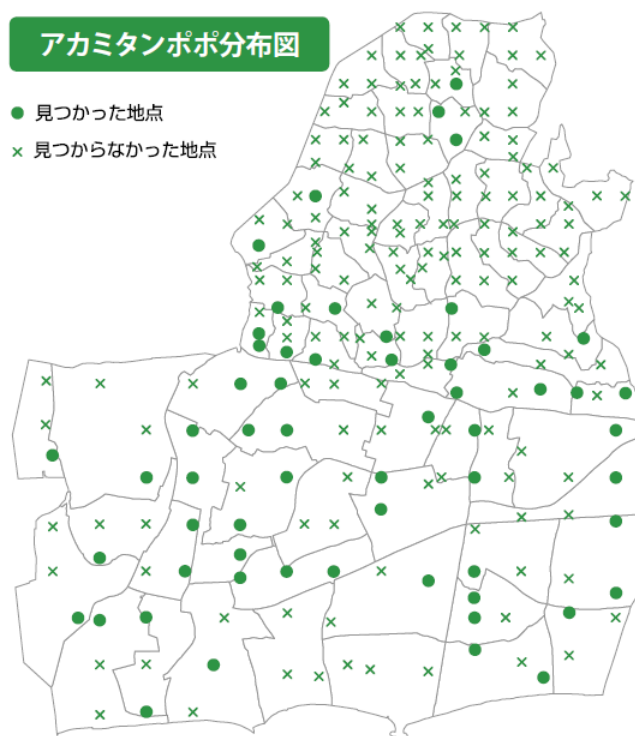


図 2005年4～5月に茅ヶ崎市内でおこなわれた調査

茅ヶ崎市(2006) 茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告 自然環境
評価マップで茅ヶ崎の自然を見てみよう。

アカミタンポポ分布図

- 見つかった地点
- × 見つからなかった地点



茅ヶ崎市内でみられる特徴的な植物

茅ヶ崎市内でみられる特徴的な植物をいくつか紹介します。

形が特徴的なウラシマソウは、県内のほぼ全域で採集され、沖積地から山地にかけて広く分布しています。市内では、北部の丘陵地の常^{じょうりよくじゅりん}緑樹林内や南部の海岸部の砂防林内、キャンプ場などでみられますが、相模川を挟み隣接する平塚市側では稀です。

林縁に生育するヒトツバハギは、県内では横浜市西部の丘陵や台地から、相模原台地の南部にかけて集中的にみられます。そのほかの地域ではきわめて稀で、やや減少傾向にあります。市内に生育していますが減少傾向で、平塚市側ではみられません。

常緑広葉樹のアカガシは、県内では沖積地と丹沢、箱根の標高が高い所を除く地域に比較的普通にみられます。市内では北部の樹林や谷戸、神社敷地内にみられ、茅ヶ崎の樹林環境の自然指標とされています。

クロマツは、県内では丹沢周辺を除いて、海岸から内陸部まで広く分布していますが、植栽されたものが多いと考えられています。海岸沿いに防風林として植林されており、潮風や砂が内陸に入り込むのを防ぐために利用されています。クロマツの防風林は、茅ヶ崎の海岸部の象徴的な植物といえます。

池、沼、湿地に生育し、穂が特徴的なヒメガマは、市内の河川や水辺などの水域にごく普通に繁茂しているのを見ることができます。



ウラシマソウ



ヒトツバハギ



アカガシ



クロマツ（防風林）



クロマツ（住宅地内）



ヒメガマ

茅ヶ崎市内で分布が限られている植物

茅ヶ崎市内の数か所にのみ分布している植物を紹介します。

ランの仲間のタシロランとマヤランは、腐生^{ふせい}ランと呼ばれ、特殊な生態を持っています。菌従属^{きんじゅうぞく}栄養植物^{えいようしょくぶつ}という植物で、根にいる共生菌から養分を得ます。県内全体で増えてきており、市内でも分布は限られていますが、その生息地内では増加傾向にあります。その原因は、林の管理方法の変化や荒廃などにより、共生菌の生息場所が増加したためと考えられています。

日当たりの良い草地や乾いた雑木林に生育するホタルカズラは、相模川を挟み隣接する平塚市には多くみられますが、市内では数カ所でしかみられません。

やや日陰の草地や林縁、路傍に生育するオドリコソウは、市内では一ヶ所で確認されています。

県内の丘陵から山地にかけた樹林内にみられるイチヤクソウは、林内の乾燥化などの環境の変化にともない減少しています。

明るい雑木林に生育するヒトリシズカは、雑木林の手入れがされなくなり林内が暗くなったことや、背の高い植物に覆われたことが原因で減少しています。

日の当たる石垣や崖地に生育するシダ植物の仲間のホラシノブは、県内各地で見られますが、市内では甘沼でのみ確認されています。



タシロラン



マヤラン



ホタルカズラ



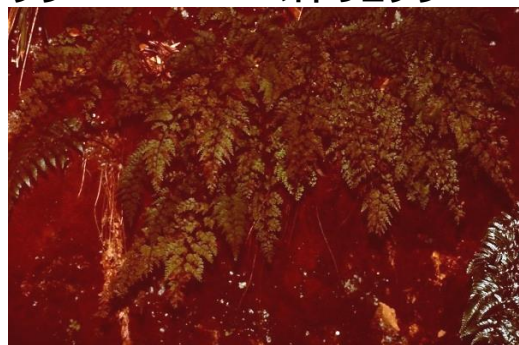
イチヤクソウ



オドリコソウ



ヒトリシズカ



ホラシノブ

今は茅ヶ崎市内でみられなくなった植物

茅ヶ崎市内で過去に生育が確認され、現在はみられなくなった植物を紹介します。

湿地や休耕田、水辺に生育する植物のヌマトラノオやミズニラ、クサレダマは、休耕田の畑地化や開発などによる湿地環境の減少により市内ではみられなくなりました。乾いた明るい林やススキ草原などの草地に生育するオケラも今は確認することができません。

これらの植物がみられなくなった原因は、各植物の種類ごとに適した生育環境の減少や消失といった、生育地の環境変化によるものと考えられます。



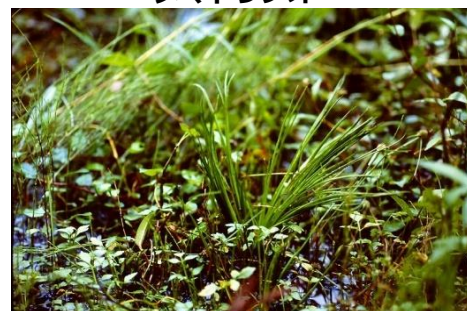
オケラ



クサレダマ



ヌマトラノオ



ミズニラ

茅ヶ崎市内で増えてきた植物

他の生育地（海外や国内の他地域）から人為的・偶発的に入り込んで定着し、生育している植物のことを帰化植物といいます。

茅ヶ崎市内で近年増えてきた植物の多くを占めるのは、帰化植物です。小出川沿いには、水面に繁茂する帰化植物で、近年、相模川流域に分布が広がっているナガエツルノゲイトウが目立ち、千ノ川沿いではウチワゼニクサ(ウォーターマッシュルーム)やイケノミズハコベが繁茂している様子がみられます。



ナガエツルノゲイトウ



ナガエツルノゲイトウの花



ウチワゼニクサ



イケノミズハコベ

造成地や空き地、道端、土手などでは、ヨーロッパ原産のブタナや県内各地の造成地から採集されているシロイヌナズナ、花が濃紅桃色～濃紅紫色で園芸植物として入ってきたベニカタバミ（ブラジルカタバミ）、世界的に広く分布するヘラオオバコがみられます。小出川沿いの水田、あぜ道、水辺では、鹿児島県や沖縄県、世界の熱帯地域などが原産で、急速に分布を拡大しているシマツユクサがみられます。また、丘陵地の樹林では、南アメリカ原産で元園芸種のトキワツユクサが増殖しており、ほかの植物を覆うという影響を与えています。



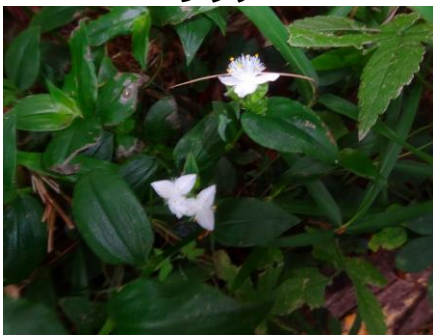
ブタナ



ベニカタバミ



シマツユクサ



トキワツユクサ



シロイヌナズナ



ヘラオオバコ

海浜植物

海岸周辺部には、潮風や砂の移動などの海浜環境に適応した海浜植物が生育しています。比較的砂浜が広く維持されている汐見台や、ヘッドランド周辺部、茅ヶ崎漁港周辺の砂浜では、コウボウムギやハマヒルガオなどの海浜植物の群落が見られます。ハマヒルガオやコウボウムギは、県内では海岸線に沿って分布し、市内でも海岸部の砂浜やサイクリングロード沿いでみられます。海浜植物は海岸の砂の移動に適応し、地面の下に地下茎が発達しています。茅ヶ崎の海岸部でハマヒルガオを掘り起こしてみたところ、地下茎が約 5 mつながっていた事が確認されています。

ハマニガナは、県内では三浦半島から湘南海岸の砂浜に点々と分布していますが、海岸のレクリエーション利用や造成によって生育は減少傾向にあり、市内では海岸部の砂浜に点々とみられます。

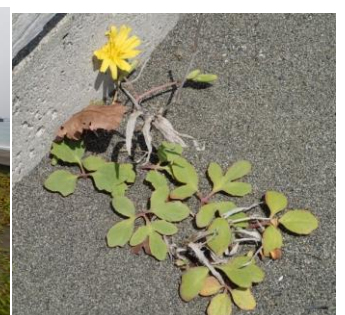


ハマヒルガオ（左、ピンク色の花）

とコウボウムギ（中央）



ハマヒルガオ・コウボウムギの群落



ハマニガナ

長年同じ植物の標本を集める

下図の複数のハマヒルガオの標本は、複数年にわたり茅ヶ崎の海岸部で採集されたものです。一番新しい標本は2016年のもので、一番古い標本は1952年のものです。ハマヒルガオは砂浜で生育するとともに、種子が海流に乗って拡散する植物です。これらの標本の存在から、長年にわたって同じ地域の海岸部にハマヒルガオの生育環境が存在していたことが分かります。このように、同じ地域で継続して採集される、または採集されないという結果を積み重ねていくことにより、地域の環境の移り変わりを追うことが可能となります。



長年にわたり海岸部で継続して採集されているハマヒルガオの標本

茅ヶ崎市文化資料館に集められてきた植物標本

『神奈川県植物誌 2018』の調査活動により茅ヶ崎市内で採集された植物は、2012～2017年の間に1,098種類あり、市内各地に生育していた証拠として、茅ヶ崎市文化資料館に新しく2,270点の標本が収蔵されました。

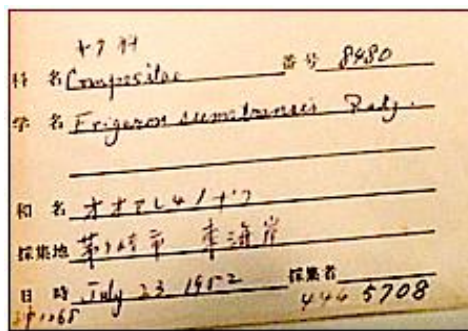
また、これまでに茅ヶ崎市文化資料館に収集保存されてきた植物標本は、植物の種類は全体で約2,400種類、標本数は約12,000点あります。

標本は植物の種類ごとに整理して保存されます。保存されている植物標本の中で古いものでは、1952年7月23日に茅ヶ崎市東海岸で採集されたオオアレチノギクの標本があります。この植物は南アメリカ原産で、世界中に分布が広がり、現在も市内でよくみられる帰化植物です。

このように実物の標本を収集保存していることにより、この植物が少なくとも1952年に分布していたことが証明できます。また、将来何か新しいことが分かってきた際に何度も調べなおすことができます。このような長年にわたる地域の環境の変遷や、自然環境を伝えていくための重要な標本が保存されています。



茅ヶ崎市文化資料館の植物標本庫



1952年7月23日に茅ヶ崎市東海岸で採集されたオオアレチノギクの標本

地域で植物の調査活動をされてきた方々の声

地域で植物の調査活動をされてきた方々の声を一部紹介します。

（文章は、意味が変わらない範囲で改変しています。）

「植物の世界に深入りした事がなかったので、知ってみたいとの好奇心で参加してきました。」

「植物が好きなので調査を始めました。」

「身近で動植物の変化を観察しなかった為、調査に参加しました。」

「定期的なモニタリングが重要だと感じた。自然の変化がはげしいと感じている。」

「市内のフロラ（どのような植物がいるのか：植物相）のおおまかな現状を知ることができた。」

「季節でのちがい、その年の気象状況などにより、変化を観察できて良かったと思います。」

「楽しかった。」

「植物が好きでよかったと思う現在です。どこへ旅行しても植物があり、癒される。」

「植物調査をしてきて、自然保護の必要性を感じている。」

「机上の知識ではなく、実物との接触により、植物の消長を目の当たりにできた。」

「身近にありながら名前さえ知らなかった多くの植物。その名前を知り観察することにより親しみを感ただけでなく、植物の世界に新たに興味を持つことができた。」

「都会での生活の中で、植物といえば庭公園の植物・花屋の植物等の園芸植物であったが、意識が変化していった。」

「茅ヶ崎に住んで、又調査活動等によって野草に気づかされた。」

「自然には縁がなかったもので、私には新鮮で興味深かった。」

「自然事物に興味・関心があつての参加で、楽しみたい、知りたい、教えたいという観点から参加し始め、記録に残すことの重要性を知った。」

地域の自然環境を調べ、知り、親しむ

地域の自然環境は、時代の移り変わりとともに変化しています。本展では、地域の植物や、植物誌作成に関する活動について神奈川県立生命の星・地球博物館で開催された「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」の巡回展示と、当館で収蔵している植物に関する資料を中心に紹介しました。このような地域の自然環境を反映している資料や、それらを調べ、保存していく活動は、過去、現在、未来を考え、地域を知る上で欠かすことのできない重要なものです。

当館に収集保存されている標本資料や写真資料、調査データは、地域において長年にわたり多くの市民の方々の手により収集されてきたものです。地域における調査研究や資料の収集活動、情報発信の活動をおこなってきた皆様に深く御礼申し上げます。

茅ヶ崎市文化資料館は、地域の「自然環境」を調べて（調査研究）、集めて（収集保存）、情報発信（展覧会・観察会・ワークショップなど）をおこない、今後も市民の皆さまと協力した博物館活動を展開してまいります。



謝辞

巡回企画展の開催にあたり、神奈川県立生命の星・地球博物館の大西亘学芸員、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県植物誌調査会、神奈川県植物誌調査会湘南ブロック、茅ヶ崎ブロックの皆さま、茅ヶ崎市文化資料館自然資料整理グループの皆さまには多大なるご協力を頂きました。記して感謝申し上げます。

【引用参考文献】

茅ヶ崎市立松林中学校(1981) 昭和 56 年度版 身近な植物に親しむための手引き書. 83pp. 茅ヶ崎市, 神奈川県.

茅ヶ崎市(2006) 茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告 自然環境評価マップで茅ヶ崎の自然を見てみよう. (環境部環境政策課環境政策担当 編). 42 pp. 茅ヶ崎市, 神奈川県.

茅ヶ崎市(2018) 第 3 回茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告茅ヶ崎の自然を見てみよう 2017. (都市部景観みどり課 編). 37 pp. 茅ヶ崎市, 神奈川県.

神奈川県植物誌調査会(編) (2018) 神奈川県植物誌 2018 電子版. 1803pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市, 神奈川県.

神奈川県植物誌調査会 Web サイト. <<http://flora-kanagawa2.sakura.ne.jp/>>

馬谷原武之(2017) 茅ヶ崎の自然資料を集めるということ-地域の自然資料の意義と今後の展望-. 文化資料館調査研究報告, 26, 15-18.

大西 亘(編) (2018) 植物誌をつくろう! ~『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから~ 展示解説書. 83pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市, 神奈川県.

田中徳久(2016) 博物館と生態学 (27) 神奈川県植物誌のために収集された標本とそのデータベース. 日本生態学会誌, 66(3), 729-734.

巡回企画展「調べてきた! 集めてきた! 茅ヶ崎の植物と『神奈川県植物誌 2018』」

主催 茅ヶ崎市教育委員会

茅ヶ崎市文化資料館 (担当: 馬谷原武之、須藤格、三谷恭子)

共催 神奈川県立生命の星・地球博物館

神奈川県植物誌調査会

協力 茅ヶ崎市文化資料館自然資料整理グループ

発行 2019 (令和元) 年 10 月

〒253-0055

神奈川県茅ヶ崎市中海岸 2-2-18 茅ヶ崎市文化資料館

TEL 0467(85)1733

電子メール shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

HP http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka_rekishi/bunkashiryokan/



びじゅうからちゃん